南山大学アジア・太平洋研究センター、慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究センター
共催シンポジウム

胡錦濤政権期の「外交ドクトリン」

2012年2月16日（木）14時～17時

南山大学名古屋キャンパス
J棟１階特別合同研究室(Pルーム)

報告１　中国におけるグローバル・ガバナンス論
俞　敏浩（名古屋商科大学コミュニケーション学部専任講師）

報告２　胡錦濤政権前期における「韜光養晦」をめぐる論争とその原点
―外交政策形成における学者の役割から
李　彦銘（慶應義塾大学法学研究科後期博士課程）

報告３　中国の国際的身分 ―「責任ある大国」から検証する
徐　顕芬（早稲田大学現代中国研究所客員専任講師、
人間文化研究機構地域研究推進センター研究員）

報告４　中国における国益論争と核心的利益
前田　宏子（ＰＨＰ総合研究所主任研究員）

司会　星野昌裕（南山大学総合政策学部准教授）
討論　須藤季夫（南山大学総合政策学部教授）
鈴木　隆（愛知県立大学外国語学部中国学科専任講師）

中国の台頭が語られるようになって久しい。さらに2000年代から世界的なパワー・シフトの時代を迎え、新大国、中国の動向は世界の注目の的となっている。
しかし中国外交の内実については、政策の多元化、利害関係者の多様化が指摘されており、その実態は益々つかみ難くなっている。
本シンポジウムでは、胡錦濤政権の外交方針に密接に関連する４つのキーワードを事例に、中国政府が提起する「外交論」の形成過程と実質を明らかにし、中国外交の指向性に具体的に迫る。

携帯電話、
スマートフォンから
この講演会の情報が
読み取れます。↓

問い合わせ　南山大学アジア・太平洋研究センター
〒466-8673　名古屋市昭和区山里町 18 番地
Tel: 052-832-3111（代表）Fax: 052-832-6825
E-mail: cfes-cfas-all@nanzan-u.ac.jp

慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究センター
〒108-8345　東京都港区三田 2-15-45
E-mail:cccskieas@info.keio.ac.jp
URL:http://cccs.kieas.keio.ac.jp/index.php